

『目標設定』

一年の計は元且にありといいますが、社員教育においては、導入時が一番の要です。つまり研修を実施する前に目的を明確にした教育計画を立てることが、教育効果をより高めるにあたります。教育計画となる外部研修を想定する場合は、研修内容、教育、Etc.における目標設定と、その進め方についてお話しします。

さて、目標設定にあたり必要なことは、まず目標を明確にすることです。目標がないと、これらがいずれ良いという気持が持ちにくく、流されやすい人がいます。ですから現状に満足せず、やらざるを得ない状況をつくることこそが、必要なのです。

次に、目標を立てるためには現状を良く把握することが必要です。現状の仕事のレベルは適切なのかという能力面、仕事の知識はどれ程あるのかという知識面、その他にも礼儀はきちんとしているか、職場内のチームワークを乱していないか等、個人的なスキルだけではなく、人間性や周りに与える影響も含めてしっかりと把握しましょう。

そして現状を把握したらその少し上を目指して目標を設定しましょう。達成するのが到底不可能な高い目標や、既に達成している低い目標ではモチベーションは上がりません。頑張れば達成できる目標が適切だと言えます。また、適切な目標を設定するためのアプローチの方法として以下の3つが挙げられます。基本能力の内「欠点列挙法」基本能力の内更に高めたいものを挙げる「希望点列挙法」理想的な能力の持ち主になるための何をすればよいか挙げる「理想点列挙法」です。これらを使い分けて適切な目標設定を行います。

最後に、目標を達成するために必要な育成計画が重要です。いつまでもどのレベルまでと具体的に計画し、手段・方法も適切に選択しましょう。また、計画にとらわれてしまい手段が目的になってしまいう事も懸念されます。想定以外の状況になったら育成計画の修正も必要なのです。より良い教育計画を立案し、良い年度初めを迎える準備をしていきましょう。

朝夕の寒気が身にしみる十一月中旬、北は北海道、南は埼玉から参加者が集いビジネス特訓四日間合宿が開催されました。飲食業、製造業、自動車販売業、雑貨販売業、遊技場から参加がありました。今回は若手が多く十代後半から三十代という構成でした。

序盤から全力で取り組む訓練生が数多くあり、大きな声や素早い動きは他の訓練生の見本となっていました。しかし、一方では研修に派遣された意味が理解できず前向きに取り組むことができなかったり、なんとかなるだろうと高を括っている訓練生も見られ、取り組む姿勢は二極化していました。そんな訓練生たちでした。ある出来事をきっかけに変化しました。

寒空での研修中、体調不良を訴える訓練生が出たのですが、その時、一人の訓練生が自分の着衣を脱ぎ貸し与えたのです。寒さや疲労で自己中心的に考えてしまいがちな過酷な状況にも関わらず、自己を犠牲にし他の人のために尽くす姿に、訓練生たちは感動を覚えたようです。その後は、互いに協力して審査の練習を行うようになり、審査の点数も着実に上がっていききました。エンジンがかかるのが遅く、残念ながら規定内で卒業できなかった訓練生もいましたが、最後の卒業スピーチでは「苦しい事でも挑戦してみることの大切さ」「一つの目標に向かって皆で力を合わせ、達成する喜び」「最後まで諦めないことの大切さ」などを学んだと力強く語り、合宿所を後にしました。今回の研修で学んだ事を忘れず、職場に戻ってからも活躍されることを期待しています。

今回は北は青森から、南は静岡まで、十二人の精鋭が集いました。雪は降らなかつたものの、連日の寒さと慣れない緊張感が訓練生の体力を奪い、まさに訓練にふさわしい十日間となりました。

特に初参加の会社の訓練生は、事前情報も無い状態で、訓練の雰囲気と過酷さに面食らっていたようです。しかし初日はきこちなかつた十二名も、三十キロ夜間歩行をきかけに、チームワークが出来合っていました。

今回特徴的だったのは、連日、各社の派遣責任者がお見えになったことです。遠くは青森、東京から足を運び、それぞれ自社の訓練生を激励していききました。訓練生達も自分に対する期待度をヒシヒシと感じ、そしてそれを力に頑張っていました。訓練では、苦戦の連続でしたが、今回の訓練生の特徴としては、自分の思いを素直に言葉に出来ない、また言葉が思うように出

てこないということがありました。そのため、三分間スピーチ審査は延長三日目にやっと合格できた人もいました。また、部下育成スピーチでも、久しぶりの延長四日目となりました。

三十キロ夜間歩行でも、雨の中の行進となりましたがリーダーを中心にチームが上手に機能し、負傷した訓練生を支えながらゴールしました。

しかし訓練の過酷な環境の中で、お互いが励まし合い、支え合うことで、自らの弱点と真摯に向き合い、一つずつ壁を突破し、殻を破っていききました。

延長四日目で修了した訓練生も二人いましたが、最後は自信と管理者としての気概を持ち、必ずやるんだという気迫に満ちあふれた顔をしていました。今回の訓練生達が、それぞれの職場でリーダーシップを発揮し、各会社の屋台骨となってくれることを、講師一同祈念します。



研修の様子

日本の正月料理

「おせち」という言葉はもともと「お節句」が変化したもので、いわゆる五節句に神前にささげる節句料理の総称でした。

1年で一番大切なお正月料理だけに「お節」という言葉が残ったといわれています。お正月におせち料理を食べるのは、正月の3日間女性が休養できるようにとよく言われますが、本来は、神様を迎えている間は物音をたてたり、騒がしくせず、台所で煮炊きをするのを慎むというところからきています。料理の一つ一つには由来があります。以下、代表的な物をご紹介します。

■田作り(ごまめ) カタクチイワシの子どもを干したものです。昔は稲を植える時に田んぼにゴイワシを細かくきざみ灰に混ぜて肥料にしました。今年もいとお米がとれますようにと願いを込めて、田作りと呼ばれています。豊年豊作祈願。

■数の子 ニシンの卵。ニシンのことを「カド」というので、カドの子がなまって数の子になったと言われています。数の子には、子がたくさん生まれて代々栄えますようにという願いがあります。

■きんとん 「金団」と書き、財宝という意味があります。今年も豊かな生活が送れますようにとの願いが込められています。

■黒豆 家族みんなが今年も1年まめに(元気に)過ごせますように、まめに働けますようにという意味があります。関西風は丸くふくらと煮ますが、関東風は「しわの寄るまで長生きできるように」としわができるように煮上げます。

■昆布巻 こんぶは「よろこぶ」と同音になることから、おめでたい食材とされています。

■煮物 大切にしたい野菜などを鍋に入れていっしょに煮しめていく「お煮しめ」は、家族が仲良くいっしょに結ばれるという意味があります。

■えび料理 ゆでたり焼いたりすると、えびの背が丸くなることから、腰が曲がるまで長生きできますようにという願いが込められています。

■なます 色の白い大根は清らかな生活を願っていただきます。また、大地に根をはるので、家の土台がしっかりして栄えるとも言われています。

■だてまき 卵を使った料理は子孫繁栄の象徴とされています。また、「伊達」とは華やかさ、派手さを形容します。華やかでしゃれた卵巻き料理ということで、お正月のお口取り「ハレの料理」として用いられました。語呂合わせや子孫繁栄の祈りというより色や形からおせち料理に登場するようになったようです。

また、巻物に似ているので、文化発展を願う縁起ものという説もあります。

■鯛 おめでたいに通じる語呂合わせ。江戸時代にはじまった七福神信仰とも結びつき、鯛はおめでたい魚としてあまりにも有名。

■菱 代々に通じる語呂合わせ。子孫が代々繁栄するように。

■紅白かまぼこ かまぼこははじめは竹輪のような形をしていました。やがて江戸時代、様々な細工かまぼこが作られるようになると、祝儀用として欠かせないものになっていきました。

■金平ごぼう 江戸時代の浄瑠璃の坂田金平武勇伝の豪傑金平にちなんで、滋養たっぷりのごぼう料理を「きんぴらごぼう」と呼ぶようになり、強さと丈夫さを願った。

■紅白なます お祝いの水引をかたどったもの。

二月の研修のご案内

■営業マン特訓五日間合宿

二月八日～十二日

「売れない時代」と言われる昨今ですが、そのような時代でも着実に業績を伸ばしている企業もあります。営業マン特訓に参加して是非その答えを見つけて下さい。内容は営業や販売で用いられる基礎技術をはじめ、質問技法やアプローチの方法、商品説明の仕方などをロールプレイングを通して徹底的に鍛え

管理者実践三日間合宿

■管理者実践三日間合宿

二月十八日～二十日

企業を伸ばすも潰すも、部下を生かすも殺すも管理者次第。管理者の皆様にはそのくらい気持ちは持って仕事に臨んで欲しい。しかし、気持ちだけでは心許ないものです。この管理者実践三日間合宿では、管理者としての下地を固めるため、カウンセリングやスピーチ、部下の説得などを実践的に学んでいきます。

三月の研修のご案内

■営業マン実践三日間合宿

三月四日～六日

■新入社員教育四日間合宿
三月十三日～十六日

■ビジネス特訓四日間合宿
三月十三日～十六日

管理者特訓六日間合宿

■管理者特訓六日間合宿

三月十三日～十八日



お陰様で創業25周年

感謝の気持ちを込めて、代表による記念講演を行います。

記念講演(期間限定)の詳細につきましては、お問い合わせ下さい。 TEL:022-392-5511